



## <フィリピン・リサーチ・レポート>

情報提供用資料

2020年8月7日

# フィリピンの2020年4-6月GDP成長率

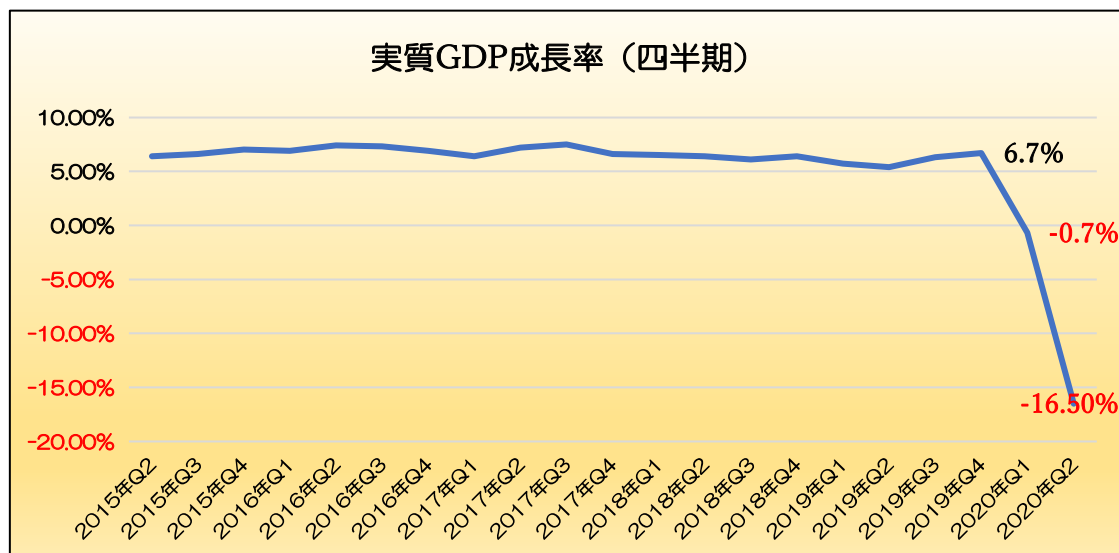
## 過去最大-16.5%

フィリピン統計庁(PSA)が発表した第4-6月期のGDP(2018年基準)成長率は前年同期比-16.5%と大幅なマイナス。マイナス幅は1981年の統計開始以来最大。1-3月期のマイナス(-0.7%)に続き2四半期連続のマイナス成長となった。1991年第2四半期～第3四半期以来となるリセッション(景気後退)入りとなった。

設備投資が同-62.1%、輸出も同-37.0%、個人消費も1-3月期(同+0.2%)から同-15.5%へ減速。

コロナウイルス感染症拡大に伴うルソン島のロックダウンによる経済活動停止が影響。他方、現在も感染拡大を制御できていない状況で、6日の感染者数はインドネシアのそれを超え、東南アジア最多となった。また8月4日にはルソン島などに再び15日間のロックダウンを敷いていることから、7-9月期も景気回復が難しいとの見方がされている。

注) PSAはGDPの基準年を2018年に変更し、過去の数値も改定されている。また2020年1-3月期のGDP成長率を-0.2%から-0.7%に修正した。



出所: PSA  
以上